複式学級について

七戸町教育委員会

複式学級とは

【通常の学級】

- **2つ以上の学年**（年齢）を**ひとまとめ**にした学級（クラス）、学級編制を指す
- **2つ以上の学年**の**児童数が16人以下**となった場合（１学年の児童を含む場合は８人）

【特別支援学級】

- 2つ以上の学年（年齢）をひとまとめにした学級（クラス）、学級編制を指す
- 2つ以上の学年の児童数が8人以下となった場合

複式学級の特徴

- 「**直接指導**」　～教師が児童に直接指導すること。
- 「**間接指導**」　～教師のねらいに沿って、児童だけで学習を進めること。
- 「**わたり**」　～直接指導をするために、一方の学年から他方の学年へ移動する教師の動きを、「わたり」という。
- 「**ずらし**」　～45分の中で直接指導と間接指導が停滞することなく展開できるように、指導課程をずらしていくことを「ずらし」という。
- 「**ガイド学習**」～児童の中から選ばれたガイド(学習の案内役、学習リーダー)が、教師の指導のもと、教師に代わって前に出て進行する学習形態のこと。他の児童は、協力し合い学習を進めていく。

複式学級の進め方



-青森県教育委員会編集
「へき地・複式教育ハンドブック」
(令和4年3月)参照-

第５・第６学年　算数科学習実践事例

第５学年

（１）単元名　「面積」

（２）本時の目標

三角形や長方形の求積方法に帰着して考えることを通して、平行四辺形の面積の求め方を考え説明することができる。

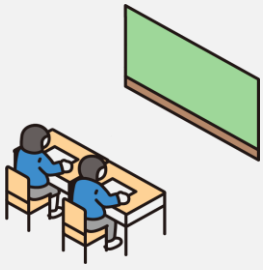


第６学年

（１）単元名　「立体の体積」

（２）本時の目標

複合図形の底辺に気付き、話し合うことを通して、複合図形を柱体と捉え、複合図形の体積の求め方を考え説明することができる。



※導入部分のみの紹介

第５学年

（３）本時の指導

主な学習活動	●直接指導	分	■間接指導	主な学習活動
①前時を振り返る。 ・三角形の面積=底辺×高さ÷2 ②問題をつかむ。 平行四辺形の面積を求めましょう。 ③めあてをもつ。 平行四辺形の面積をいろいろな考え方で求めよう。 ④見通しをもつ。 ・三角形に分ける。 ・長方形にする。 ⑤自力解決をする。	●前時の学習で分かったことは何ですか。 ●問題を掲示する。 ●どんな形にすればいいですか。 ●既習内容を確認する。 ●キーワードを板書する。 ■時間は８分です。早く終わったら別な方法を考えましょう。説明の練習もしましょう。	8 8	■円柱の体積を求めさせる。 ■練習問題が終わったら答え合わせをする。 ずらし わたり ②問題をつかむ。 複雑（L字）な形の立体の体積を求めましょう。 ●前時の四角柱の図を掲示しておく。 ③めあてをもつ。	①練習する。

第６学年

（３）本時の指導

複式学級の特徴(メリット)

- 一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい。
- 意見や感想を発表できる機会が多くなる。
- 様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる。
- 教師が複数の学年間を行き来する間、児童が相互に学び合う活動を充実させることができる。
- 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える。
- 教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。
- 異学年の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる。
- 地域の協力が得られやすく、地域住民の方々の学校への積極的な参画を期待できるため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい。
- 児童の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。

-文部科学省発行「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」(令和8年8月5日)-

複式学級の課題(デメリット)

- **人間関係が固定化する傾向に伴う、社会性、向上心の育成**
  (男女比の偏り、教師と児童との心理的な距離が近い　など)
- **多様な価値観に触れる機会が少ないことによる「コミュニケーション能力」「思考力・判断力・表現力」等の育成や「主体的・対話的で深い学び」の実現**
  (班活動グループ分けに制約、多様な発言が引き出しにくい　など)
- **複式学級の場合、異学年での馴れ合い的な生活態度に伴う、規範意識の希薄化**
  (運動会等の集団活動の教育効果が下がる、兄弟姉妹が同じ学級　など)
- **少人数・複式学級のよりよい指導の在り方(教員の負担が大きい)**
  (特別な指導技術、単式学級の学校への転出時等に未習事項が生じるリスク　など)

-文部科学省発行「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」(令和8年8月5日)-
-青森県教育委員会編集「へき地・複式教育ハンドブック」(令和4年3月)-

教室が不足することへの対応について

・学校施設
・教室等の総面積と教室数
・教室の確保状況

学校施設

－公共施設状況調査表－

＊令和8年3月31日現在

	七戸小学校	城南小学校
敷地面積	27,784.00㎡	32,960.00㎡
代表建築年	平成17年　※東校舎：昭和54年	昭和63年
経過年数	21年	38年
耐用年数	47年	60年
代表建築物構造	鉄筋コンクリート造	鉄筋コンクリート造
延べ床面積	4,828.03㎡	5,040.300㎡
階数	2階	2階
主な改修	平成28年東校舎3階内装トイレ改修	平成29年大規模改修（老朽、トイレ）
	令和2年普通教室等エアコン設置	令和2年普通教室等エアコン設置
	令和4年グラウンド改修、緑地広場整備	
	令和6年プール・倉庫解体、駐車場整備	

教室等の総面積と教室数

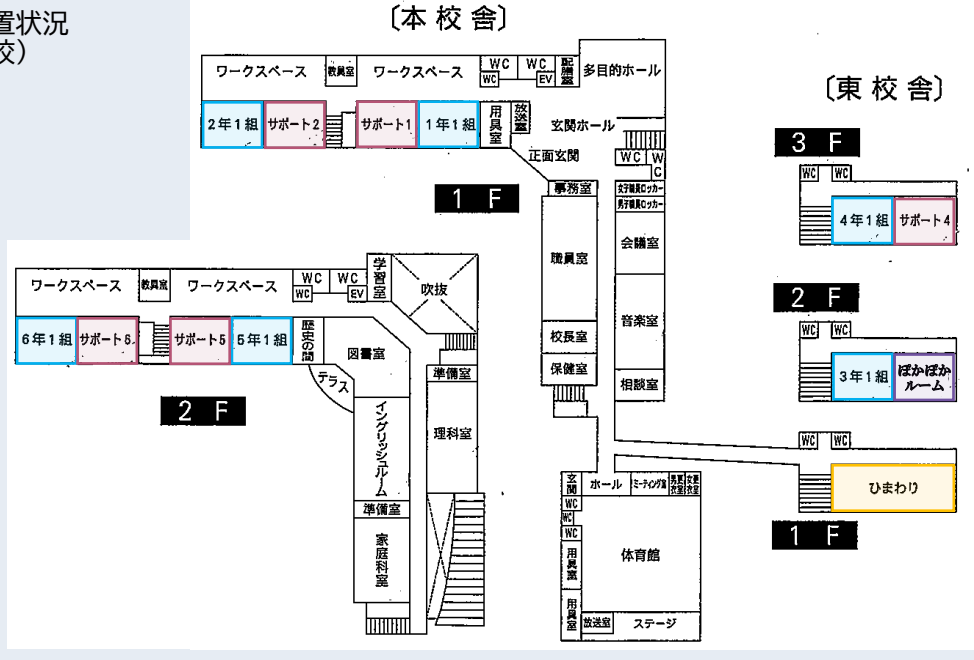
－公立学校施設台帳－

＊令和8年3月31日現在

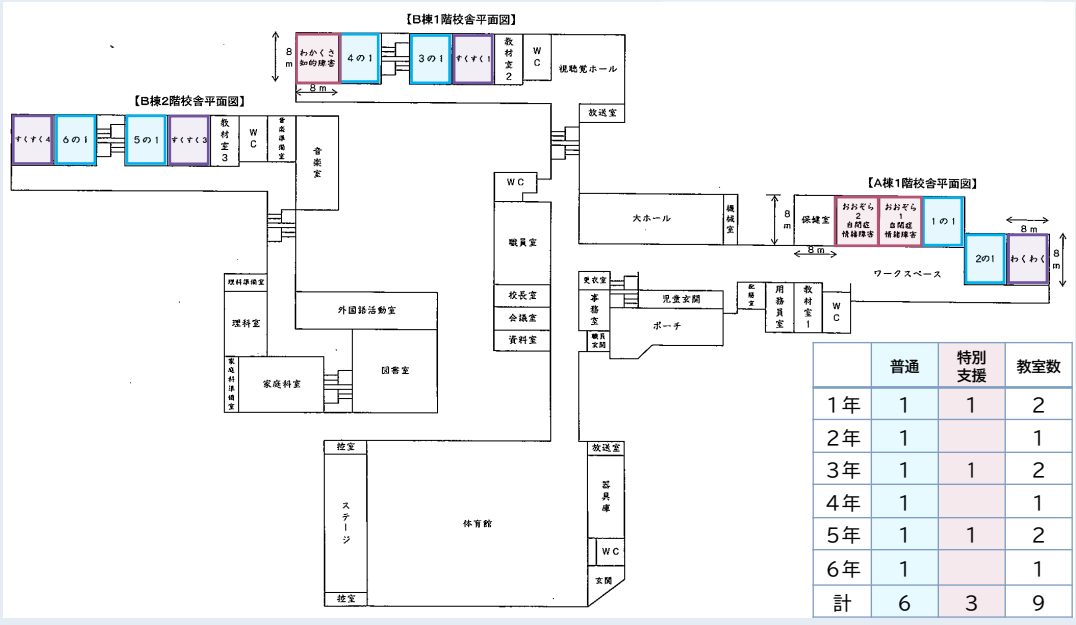
	七戸小学校	城南小学校
普通教室の総面積（㎡）	**765㎡**	**573㎡**
普通（教室）	12教室	9教室
特別教室の総面積（㎡）	**777㎡**	**962㎡**
理科（教室）	1教室	1教室
音楽（教室）	1教室	1教室
家庭（教室）	1教室	1教室
外国語（教室）	1教室	1教室
図書室（教室）	1教室	1教室
特別活動（教室）	2教室	4教室
教育相談（教室）	4教室	1教室

令和８年度　教室の配置状況（七戸小学校）

	普通	特別支援	教室数
１年	1	1	2
２年	1	1	2
３年	1		2
４年	1	1	2
５年	1	1	1
６年	1	1	2
計	6	5	11



令和８年度　教室の配置状況
（城南小学校）



	普通	特別支援	教室数
１年	1	1	2
２年	1		1
３年	1	1	2
４年	1		1
５年	1	1	2
６年	1		1
計	6	3	9

統廃合を想定した学校規模適正化の際の教室の確保について

七戸地区学校規模適正化に関する基本方針

（４）施　設　　既存の学校施設を最大限活用し、新築は行わない。

（案）

・特別教室（特別活動、外国語教室）等を普通教室へ改修

アンケートについて

○ 主　旨
- 児童数の減少に伴う今後の教育課題等について周知を図る。
- 七戸地区の小学校の規模適正(学級数、学校数)について広く意見を聞く。

○ 対　象
- 七戸小学校・城南小学校の保護者と教職員
- 城北こども園・城南こども園・明照保育園の保護者

○ 調査方法
- WEBによる調査(各校・園を通じて二次元コードを周知)　※これまでの会議内容等も周知

○ アンケートの内容
- 別添アンケート(案)参照

○ その他
- アンケート後に説明会を実施